

## 第 8 章 昆虫類(蝶類)

1. 調査概要	8-1
2. 調査結果	8-4
3. 蝶の保全	8-7
4. 参考文献	8-13

### 資料編

- ・ 調査区域内の蝶

執筆者 西田 迪雄

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

宗像市の蝶の生息状況を調査し、蝶相の現状を明らかにして蝶の生息環境を把握する。さらに各調査地における過去の調査結果と比較し、蝶相の時間的変遷を調べ、生息拡大及び衰亡がある種について、その原因を論じる。

さらに 50 年前は何処でも見られた普通種が、現在見られなくなり、レッドデータブックに登録されていることに鑑み、調査データを基に希少種のみならず普通種を保全するにはどうすればよいか、生物多様性保全策を提言する。

### (2) 調査対象

チョウ目の昆虫類、いわゆる蝶の生息状況を調査するが、これにはアゲハチョウ科、シロチョウ科、タテハチョウ科、シジミチョウ科、セセリチョウ科が含まれる。調査対象は成虫（蝶）の生態・分布状況であるが、可能な限り卵・幼虫・蛹、ならびに成虫の餌（花や樹液などの蜜源）や幼虫の食餌植物（寄主植物）などの生態も含める。さらにアサギマダラに見られるような、性フェロモン生成のために摂取するピロリジジナルカロイド含有植物等も調査対象とする。

### (3) 調査対象地域

指定調査地のうち、「地島遠見山周辺」は「地島全域」へ、「大島中央～北部」は「大島全域」へ、「鐘崎海岸」は「鐘崎海岸・鐘の岬」へ拡大した。さらに「武丸・新立山」を追加するとともに、「釣川中流～下流周辺」、「吉田・多礼貯水池周辺」、「磯辺山周辺」を外した。その結果、調査地を以下のようにした（図 8-1 参照）。

- ① 沖ノ島
- ② 大島
- ③ 地島
- ④ 湯川山とその山麓（含池田地区）
- ⑤ 孔大寺山、金山、城山山系
  - ⑤-1 孔大寺山・白山とその山麓
  - ⑤-2 金山・弥勒山とその山麓（含山田ホテルの里公園）
  - ⑤-3 城山とその山麓
- ⑥ 武丸・新立山
- ⑦ 許斐山
- ⑧ 鐘崎海岸・鐘の岬
- ⑨ さつき松原
- ⑩ 草崎半島
- ⑪ 八所宮
- ⑫ 名残

上記調査地のうち、山頂は隣接市町との境界にあるので、記録された種が宗像市産か隣接市町産かという問題が生ずるが、蝶は移動性が高いのでその発生地を特定することは一般に困難である。それ故、特殊な場合（食草や生息環境などの関係で分布が非常に極限される場合など）を除き、各山は一つの山塊と捉えた。例えば許斐山の福津側登山道で記録された種であっても許斐山産とし、本調査の記録に含めた。

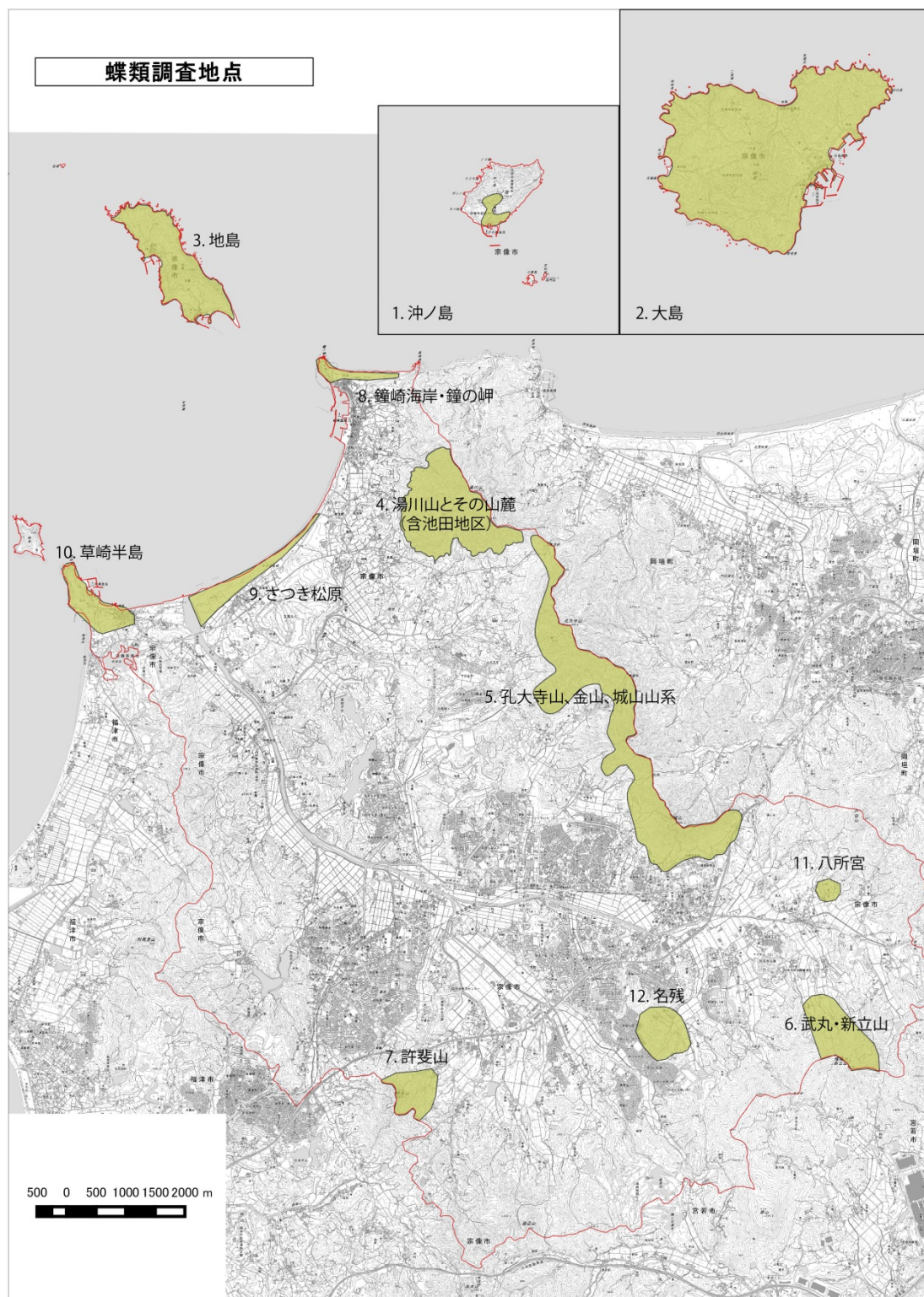


図 8-1 昆虫類（蝶類）調査地点図

## （４）調査方法

### １）フィールド調査

調査委員及び調査協力者（以下調査員と言う）が各自手分けして、単独、時には複数にて指定調査地で目撃、撮影、採集による調査を行った。蝶が生息することとはその地で世代交代をしていることである。従って生息のための必要不可欠条件は、その地に幼虫の食餌植物（寄主植物）があることと成虫が摂取する蜜源があることである。それゆえ、調査では、成虫のみならず、卵、幼虫、蛹の調査及び寄主植物、さらに蜜源の花、樹液等の調査も行った。トランセクト法は採用しなかった。

### ２）関連団体からの情報提供

宗像植物友の会から寄主植物の情報の提供を受け、それに基づいて寄主植物の調査を行った。

### ３）登山者からの情報提供

城山登山者から、情報の提供を受けた。城山のアサギマダラを目撃情報を山頂小屋に置いたノートに記帳してもらった。

### ４）市民協力者からの情報提供

２人の市民協力者から蝶の撮影画像を提供してもらった。これにより、調査員がカバーできない調査地域内エリア、調査時間におけるデータが補完された。

### ５）過去の記録調査

主として同好会誌（博多昆虫同好会会誌等）に発表された報文より記録調査を行った。沖ノ島に関しては1932年以来５回の調査が行われているので、その報告を参考にした。また、寄主植物の調査では前回の自然環境調査の報告書、宗像市史及び宗像植物友の会会誌「かくれみの」を参考にした。さらに2010年６月に福岡県による沖ノ島自然調査が行われたが、その調査員からデータの提供を受けた。

## （５）調査員構成

表 8-1 調査員名簿

	氏名	所属
調査委員	西田迪雄（宗像市）	博多昆虫同好会、むなかた蝶類研究会
調査協力者	安部敏男（宗像市）	むなかた蝶類研究会
調査協力者	加藤陽一（北九州市）	博多昆虫同好会
調査協力者	鈴木 光（福岡市）	日本鱗翅学会、博多昆虫同好会
調査協力者	田中隆義（福津市）	博多昆虫同好会、むなかた蝶類研究会

## （６）調査実施日

公式の自然環境調査は平成 27 年 5 月 1 日に始まったが、実際は調査員が過去 10 年間にわたり調査した結果も報告書に挿入している。表 8-2 に平成 27 年 5 月からの調査に先立って同年 1 月から実施した調査も含めた実施回数表を示す。冬季（12 月～2 月）はアサギマダラの寄主植物キジョランと越冬幼虫（アサギマダラ、ゴマダラチョウ、コムラサキ、ベニシジミ等の越冬幼虫）、その他寄主植物の調査を行った。

今回実施した調査延べ回数（平成 27. 5. 1～28. 5. 31）は以下の通りである（表 8-2 参照）。延べ回数とは、例えば同一地域を 2 人で調査したときは 2 回と数える。

表 8-2 調査実施回数（平成 27 年 5 月 1 日～平成 28 年 5 月 31 日）

調査地	計画	実施延べ回数	調査地	計画	実施延べ回数
沖ノ島	1	8 (8)	武丸・新立山（含山麓）	3	63 (70)
大島	26	40 (45)	許斐山（含山麓）	3	20 (25)
地島	6	8 (8)	鐘崎海岸・鐘の岬	3	13 (16)
湯川山（含山麓）	2	32 (40)	さつき松原	2	9 (9)
孔大寺山・白山（含山麓）	6	4 (4)	草崎半島	2	6 (9)
金山・弥勒山（含山麓）		21 (21)	八所宮	3	10 (10)
城山（含山麓）		25 (31)	名残	10	50 (56)

※実施延べ回数の項に示す（ ）内の数字は、平成 27 年 1 月から公式調査に先立って行った調査回数を含めたものを示す。

## 2. 調査結果

### （１）宗像市に生息する蝶の概要

表 8-3 宗像市において生息が確認された種

土着種（宗像市で世代交代し、越冬する種）	67
準土着種（暖季には世代交代はするが、越冬できない種）	3
飛来種（いわゆる迷蝶）、一時的な発生種	5
計	75